



〒892-0841  
鹿兒島市照国町13-42  
カトリック鹿兒島教区  
電話099(226)5100  
振込口座 02030-2-8359  
編集発行 教区広報部  
1部60円年間千共1100円



# 竹山・成相両神父の金祝など検討

## 4月の鹿兒島教区司祭評議会

4月11日(火)午後から教区本部で司祭評議会が開かれた。主な議題は①竹山師、成相師の金祝について、②社会司教委員会の「出前研修」について、③ファティマのマリアご出現百周年について。

①今年教区内で金祝・銀祝を迎える司祭・修道者は竹山昭師と成相明人師で、いずれも鹿兒島教区司祭。教区主催での祝いは、12月3日(日)午後からカテドラルでミサをささげ、その後パーティを開くことに決まった。開始時刻など詳細は後日決定する。

②今年1月の司祭大会で、カトリック中央協議会の社会司教委員会が司祭・修道者を対象にした「出前研修」を今年度企画していることが紹介された。正義と平和協議会、カリタス・ジャパン、HIV・AID Sデスクなど社会司教委員会担当の13のテーマに関して、司祭や修道者の定期的な集会などに合わせて同委員会が講師を派遣し研修を行うというもの。検討の結果、教区では9月19日(火)のコンベンツス時に

### 4月のコンベンツス

4月12日(水)、教区本部でコンベンツス(全司祭集会)が開かれた。今回は、緊急に審議する議題は特になく、前日の司

### 全島あげて復活を祝う

#### 司教も駆けつけ奄美大島で合同ミサ

4月16日(日)の復活の主日、奄美大島地区教会では郡山司教とともに合同で復活祭を祝った。会場の大熊小教区(タム神父主任司祭)の巡回浦上教会の庭には特設の祭壇が設置され、全島から450人余りの信徒が駆けつけた。

午前10時半からささげられたミサでは、奄美大島らしい奉納。信徒たちが収穫した野菜やバナナ、サトウキビ、魚などを持った列が話題となった。



ミサで説教した郡山司教は「何が私たちの生き方を難しくしているか?」と問

いかけ、神との付き合い方のコツを伝授した。司教は、熟練した運転や大好きなスポーツは楽しんでやるのに比べ、信仰することには疲れを感じる信者が多いことに対して「神との馴染みが不足している。お付き合いの仕方のコツを外している」と語った。その上で、私たちにとって大切なのは「いい信者になりたい」「神の心を知りたい」という思いだと断言。聖人になるように招かれている私たちは、「ありがたう」「ごめんなさい」の言葉を大切にしながら、神と馴染むために「起き抜けの祈り」を大切にしたい。

朝目覚めたその時から「神よ、あなたが讃えられますように」と祈り、前向きな自分をイメージし続けていくことで、少しずつ心が敏感になり神と馴染んでいくとメッセージを送った。ミサ後は、小教区ごとに持ち寄りの食事を楽しみ、教会対抗のゲーム大会に汗を流し、小教区のそして奄美の絆を強めた。

とすることがすでに決まっている。前回現地で確認した建設用地の規模から、納骨堂は120区画できること、また、合祀墓は散骨式にしなくても、規格が小さい骨壺で納める形式で十分利用希望者の目的を果たせることが分り、その形式を採用することに決した。次回は建設費の見積もりが出される予定。

### 120区画で検討

#### 教区納骨堂建設委

4月9日(日)、教区本部で納骨堂建設委員会が開かれた。今回は建設を依頼する予定の前道石材が提案した納骨堂案について検討した。納骨堂の内容は、①単身者・核家族用の屋外型と②散骨式の合祀墓の二つ

### 刷新運動の始まり

今年、カトリックでの聖霊刷新のきっかけとなったアメリカでの出来事「デュケインの週末」(1967年2月18日)から50周年、日本では45周年を迎えます。聖霊降臨節には、フランススコ教皇の呼びかけでローマで祝賀大会が開かれ、日本からも40人ほどが参加予定です。

この「デュケインの週末」の出来事とは、超教派の「チャペル・ヒル・ミーティング」という聖霊刷新の集いに参加したアメリカのカトリック信者たちが、熱心に祈り始めたことから始まります。1967年2月17日から週末を利用した黙想会を開きました。聖霊降臨のような恵みを熱心に祈ったところ、参加した教授や学生たちが、預言や癒しの賜物を体験しました。1人の教授は「私はもうペンテコステを信じる必要はない。私はそれを見たのだから」と証しています。(末吉卓也)

聖霊について学ぼう  
指導 F・マッケイ神父  
(聖コロンバン会)  
日時 5月10日から毎週水曜日、8回。午前10時～正午  
場所 ザビエル教会

ファティマの聖母  
ご出現記念ミサ  
5月13日(土) 14時  
鹿兒島カテドラル  
司式 泉浩二神父

参加費 自由献金  
※テキストは「聖霊による刷新」、事務所ヒスロ発行「新生への門出」(500円)。セミナー開催中に販売  
主催 聖霊による生活刷新セミナー奉仕グループ  
協力 末吉卓也神父

修道会人事・消息  
▼柳本繁春神父(コンベンツアル会・本河内教会)  
は、古田町教会協力司祭  
▼久保芳一神父(コンベンツアル会・古田町教会助任)は、本部修道院

### ファティマの聖母について

ポルトガルのファティマの丘に囲まれた窪地に、1917年5月13日から10月13日にかけて6回、聖母が3人の牧童に出現した。当時、ポルトガルで有力だった反聖職者主義者や合理主義者によって身柄を拘束されたため出現が19日になった8月を除いて、毎月13日に聖母は出現した。

10月の出現では、ご自分がロザリオの聖母マリアであることを明かして、人々に回心することを求めた。聖母出現の中でファティマの出現は最も預言的なものとされており、第一と第二部では地獄の幻視、第二次世界大戦、ロシアへの憂慮を述べつつ、回心とマリアの汚れない清心への信心によってそれらを回避するよう言及している。  
第三部の内容は長い間公表されていなかったが、2000年、教皇庁教理省に

### 「短信」

▼吉野教会で堅信式  
4月2日、吉野教会では、堅信式があり2人が受堅の恵みに浴した。

### 教区司祭人事

▼坂本進神父(教区本部)は、ザビエル教会協力司祭

# 教区で働く聖職者たちの顔ぶれ

## 2017年度 司祭・終身助祭



郡山健次郎司教



始良・溝辺教会  
アン神父



始良・溝辺教会  
バク・チャンキュ神父



指宿教会  
デイーノ神父



加世田教会  
バク・ジンヤン神父



鴨池教会  
泉 浩二神父



ザビエル教会  
竹山 昭神父



ザビエル教会  
貴島丈弥神父



ザビエル教会  
坂本 進神父



谷山教会  
頭島 光神父



谷山教会  
ムイベルガ神父



谷山教会  
ボスコ神父



種子島教会  
栃尾泰英神父



玉里教会  
小隈憲士神父



紫原教会  
鈴木康由神父



吉野教会  
チョン・ホプチョン神父



鹿屋教会  
スティーブ神父



垂水教会  
丸野六雄神父



国分教会  
サンタマリア神父



志布志教会  
寝占敦之神父



阿久根教会  
牧山田一神父



出水教会  
萩原義幸神父



入来教会  
ハンマ神父



大口教会  
アッシャー神父



川内教会  
メニッヒ神父



大笠利教会  
内野洋平神父



小宿教会  
ティエン神父



大熊教会  
タム神父



瀬留教会  
ソン・ジンウク神父



名瀬聖心教会  
永山幸弘神父



古仁屋・古田町教会  
松永正男神父



古田町教会  
柳本繁春神父



徳之島・和泊教会  
福崎英雄神父



徳之島・和泊教会  
大松神父



教区本部  
末吉卓也神父



純心聖母会  
関根悦雄神父



ラサール学園  
山口好信神父



神学院  
中野裕明神父



YBU本部  
小川靖忠神父



出向  
浜崎真実神父



引退  
田原 章神父



引退  
田邊 徹神父



引退  
松森孝郎神父



終身助祭  
桃蘭淳一郎師



終身助祭  
久保俊弘師



終身助祭  
川口 茂師



終身助祭  
四條淳也師



終身助祭  
石神秀人師



終身助祭  
池上聖行師

# 司祭の約束を更新

## 司教を囲んで聖香油ミサ

4月12日(水)鹿兒島カテドラル・ザビエル記念聖堂には、教区各地で働く司祭・終身助祭ら40人余りが集い、司教と共に聖香油ミサをささげた。

教区では永年、「司教と司祭の強い絆を表す」このミサは聖木曜日にささげら



油を聖別する郡山司教

れてきたが、離島から駆けつけてくる司祭たちの夜の典礼に配慮し、昨年からの水曜日に変更して実施している。

福音朗読後、郡山司教は「油を注がれた司祭、信徒の役割は打ち砕かれた人々のところに向いて福音を告げること。しかし自分が何かに囚われていてはいけない。こだわりから抜け出し、神の思いに気づいて、役目を果たせるように司祭、信徒になって欲しい」と説教し、その後、この日、集まってきた司祭たちを一人ずつ紹介した。

説教の後、司祭団は「ことばと秘跡によって人々に仕え、与えられた



使命を果たすことができるよう」叙階の約束を更新。集まった80人余りの信徒たちもその後の共同祈願で司教、司祭が神のみ旨を果たせるよう心を一にして祈った。

ミサの間には、病者のための油、洗礼志願者のための油、聖香油がそれぞれ祝福、祝別され、小瓶に分けられて各小教区に持ち帰られた。

この日のミサの終わりに、新しい任務地へ向かう司祭たちに、司教から任命書が手渡され、信徒たちから大きな励ましの手が送られた。

### 文芸

#### 俳句

鹿兒島純心 川上 和

祭壇の復活の光心に射し  
春立つや楽の音色も縦に立つ

奄美市 林 常広

学童や一歩前進新学期

吉野教会 徳永ノブ子  
司教様春の講話や皆笑顔で  
過ぎし日の脳裏に浮かぶさ

#### 短歌

鹿兒島純心 川上 和

ゴルゴタの救いの御業今こ  
こに新たな命に桜も吹雪く

始良教会 川口節子

過越しの雨さわさわと降り  
止みて主復活の光となりし  
御父の右坐し給うや夕映え  
の彩雲の美に佇みて居る

## 朗読奉仕者に2人を選任

### 池上さん(徳之島)と諏訪神学生

3月26日(日)ザビエル教会でのミサの中で、朗読奉仕者の選任式があった。この日朗読奉仕者の選任を受けたのは、教区神学生



池上利男さん

の諏訪勝郎さんと終身助祭候補者の池上利男さん(徳之島教会)の二人。

司教は堅信の七つの賜物を取り上げ、これまで神からのこの恵みを粗末にしていたことを反省して欲しいと促した。その上で、これらの恵み自分のものとし、自分を直視する勇氣を持つて、マリアのように「なれかし」の心で生きられるよう成長して欲しいと結んだ。

説教後は、竹山昭神父の呼び出しにこたえ、司教の前に進んだ二人の朗読奉仕者候補者は、司教から朗読奉仕者の役割についての訓話を受け、聖書を手渡されるなどして選任を受けた。

順調に進めば、諏訪神学生は3年後に司祭に、池上さんは1年後に終身助祭に叙階されるという。



諏訪勝郎神学生

## 会と催し (5月)

3日(水) 聖フィリポ 聖ヤコブ使徒  
7日(日) 復活節第4主日(世界召命祈願の日)

### 世界召命祈願の日

神は、すべての人が誠実に自分の生涯を過ごすように招いています。ある人は、社会の中のさまざまな職場で働く人として、また夫、妻、父、母としてよい家庭を築くように、そしてある人は、神と人とに仕える司祭、修道者となるように招かれています。神の招きはこのような人それぞれ異なりますが、自分に対する神の望みを祈りつつ探していくことが大切です。近年、司祭や修道者の減少、高齢化が進んでいます。とくに「世界召命祈願の日」には、司祭、修道者への招き(召命)に1人でも多くの人がこたえることができるように祈りましょう。この日は、福者パウロ六世に教皇よって1964年に制定されました。

11日(水) 聖霊セミナー・教区本部・9時  
13日(土) 聖体礼拝・カテドラル・6時30分  
M.E・教区本部・13時  
▼賛美の集い・教区本部・14時

14日(日) 復活節第5主日  
15日(月) レンプトール教会  
16日(火) 教区巡礼委員会・教区本部・19時  
17日(水) デイノ神父叙階記念(1998年)  
18日(木) 聖霊セミナー・教区本部・9時  
19日(金) ザビエル祭実行委員会・教区本部・19時  
20日(土) デイノ神父霊名(聖ベルナルディーノ)復活節第6主日

21日(日) 世界広報の日(献金)  
▼カトリック北薩大会、テーマ「祈り」(ラサール学園理事長ホセ・デルコス修道士)・大口明光学園・12時30分  
24日(水) 聖霊セミナー・教区本部・9時  
25日(木) 聖マリア学園理事会・10時・教区本部  
26日(金) カトリック大隅学園理事会・教区本部・10時  
28日(日) 主の昇天  
▼教区経済問題評議会・教区本部・14時  
▼オリープの会・教区本部・14時  
▼三教区司祭合同懇話会・那覇教区・6月2日  
▼タム神父叙階記念(2007年)  
▼聖霊セミナー・教区本部・9時

### 祈りの意向

【祈祷の使徒会】  
福音宣教 アフリカのキリスト者たち  
日本の教会 子どもの貧困の解消

## 司教執務室便り

### 聖母月とロザリオ



五月といえば聖母月。五月を聖母月と呼ぶことにした簡単ないきさつを女子パウロ会のホームページで見つけた。「ヨーロッパの春を迎える祭りを背景に広まり、18世紀に入つてさかんになりました。」長い冬の

日本でも、五月になると山々が新緑に包まれ自然界がみずみずしく輝き、花々も咲き乱れて美しい時を迎える。しかし、日本で五月といえ

代父母の皆さんには手持ちが足りずにあげられないこともあるが極力そうするようにしている。

代父母が日本では形式的になってい

「この月はマリア様にこそふさわしい」としたところがカトリックの国らしい。18世紀に盛んになったとい

「この月はマリア様にこそふさわしい」としたところがカトリックの国らしい。18世紀に盛んになったとい

諏訪勝郎神学生の「僕の長崎への道」

日本二十六聖人の道を歩いて (8)

3月2日(水) 倉敷

午前7時、ミサに与る。一人の信徒が突然、共同祈願を司式司祭に申し出た。「日本二十六聖人の道を歩いているこの神学生が、無事に長崎まで完歩できますように」。平和の挨拶では、日本では珍しい、抱擁も。驚くとともに、素直に嬉しい。

きょうは一日、倉敷教会で今後の行程を整理。明石の松浦謙神父が、神学生時代の同級生の、ここで司牧する野中泉神父を、広島教区でほとんど知己のない僕のために紹介してくれた。

野中神父は一見、寡黙。静かな人。だが二十六聖人の道を、分割ではあるが一年半かけて完歩、雨の日も雪の日もサンダルで踏破したという猛者でもある。

宿泊施設の有無、テント設営の可否、道路の有無や歩行の可否など、自らの体験を踏まえ、これからの経路について具体的かつ的確



きょうは、きのうの朝ミサで共同祈願を申し出た倉敷教会の信徒、Wさんが同行。Wさんは、分割形式で一年半をかけ、主に野中神父の巡礼グループで、日本二十六聖人の道をすでに完歩している。

3月3日(木) 川辺一荘 原:約25km

午前10時頃、川辺橋を渡る。きょうは、きのうの朝ミサで共同祈願を申し出た倉敷教会の信徒、Wさんが同行。Wさんは、分割形式で一年半をかけ、主に野中神父の巡礼グループで、日本二十六聖人の道をすでに完歩している。

また広島教区内の経路に最寄りの、宿泊可能な教会もいくつか教えてくれる。早速、電話で宿泊の可否を問い合わせる。ほとんどの教会から快諾の返事。幸運がすぎるようで、怖い。これまで時折、薄々と感じてはいた。この旅はもう一人で歩いているのではない、もう僕一人の旅ではない、何か言いようのないものが迫る。

「わたしも歩きたい。けれど、この脚ではとても長崎まで歩くことはできない。どうかわたしの祈りだけでも一緒に連れて行ってください」。京都教区で、大阪教区で、また広島教区でも、このような言葉を脚や身体の不自由な方々から聞いた。

多くの人が、「何もできないけれど、せめて祈りだけでも」と励ましてくれた。「全能の神を信じます。イエス・キリストの御名によつて、痛めたこの脚を治してください」。立ち寄ったある教会では、高齢の信者が一人ひざまずき僕の脚を抱え、祈ってくれたのである。

それにオマリ神父が言っていたではないか。「足が痛くて、祈りも何もあつたものではない」と愚痴る僕に、「それでも主は、君と共に歩いてくださっている」と。もはや、などとはおこがましい。いつだって僕は、決して一人で歩いているんじゃない。

矢掛で遅い昼食。Wさんから、野中神父との珍道中を聞く。全行程をサンダルで踏破した逸話のみならず、地図上では明示されていない経路が実際は途中で消えたり、一時迷いに迷った拳句元の場所に舞い戻っていたりなど、枚挙にいとまがない。一人旅にない、愉快を知る。

Table with 4 columns: 第一回, 第二回, 第三回, 第四回, 第五回, 第六回. Rows contain chapter titles and dates.

KJP (鹿児島正義と平和協議会) 通信 5月号

「九州電力に勤めている人や原発で生計を営んでいる人がいるのだから、教会は原発に反対することはできないのか」という意見を耳にすることがあります。たしかに教会の中に原発で生計を維持している人がいるでしょう。その方々が、原発の問題について発言できなくなったり、居心地が悪くなったりすることがないようには配慮が必要ではないでしょうか。しかし、そのことと原発の是非は区別する必要があります。

「原発を容認する立場を頭から否定するのはなく、対話への道筋を求めていきます(274ページ参照)。例えば、「石油・石炭などの化石燃料に比べて原発は二酸化炭素の排出が少なく、地球温暖化に役立つから必要だ」という意見に対して理由をあげて反論を丁寧に説明していただきます(251ページ参照)。また、「原発はコスト安である」という意見に對しても、コストの内訳を具体的に説明し、原発のコスト高を裏付けていきます(143ページ)。私たちは結論の対立から対話を閉ざすのではなく、お互いの根拠を示しながら、地域づくりを模索すべきではないでしょうか。

「戻ってくる人」「どちらにするか迷っている人」に断絶されています。原発事故は、ふつうの人びとの日常生活を壊し、子どもたちの将来にかかわる健康被害への心配をもたらしています。放射能を浴びながら原発を支えているのは、現場で働いている下請けの労働者たちです。被害は、もっとも弱い立場の人々を直撃しているのです。ここに原発の問題点があります。

玉里教会の主任司祭小隈憲士神父は、日本カトリック司教団のメッセージ「いのちのまなざし」(増補新版)を学ぶ会を始めることを決めそのスケジュールを発表した。学習会は、5月から11月(8月を除く)までの6回、毎月最後の日曜日に午後5時から玉里教会の1階ロビーで開かれる。同学習会は、玉里教会信徒の信仰養成のためのものだが、関心のある人は受講可能とのこと。

昨年出版された「今こそ原発の廃止を 日本のカトリック教会の問いかけ」(日本カトリック司教協議

原発は既に立地地域(鹿児島の場合薩摩川内市)を分断し、市民の間に分裂をもたらし、地元で集会を開き、反対の声をあげることに重点を感じていると語っています。薩摩川内市

「いのちのまなざし」学ぶ会 5月から玉里教会

の使命だと思えます。 定例会の案内 (毎月第3土曜日) 日時: 5月20日(土曜日) 13時~15時 場所: 教区本部

① 主の祈り ② 情報交換 ③ 原発が危ないのなぜでしょうか? (放射能と被曝)

Katesismo sa Taon ng mga Dukha (Fr.Dino Orolfo)

Advertisement for 'Ang mga Dukha ay Nasa Gitna ng Ebanghelyo' with text in Filipino and English, including a title and introductory paragraph.